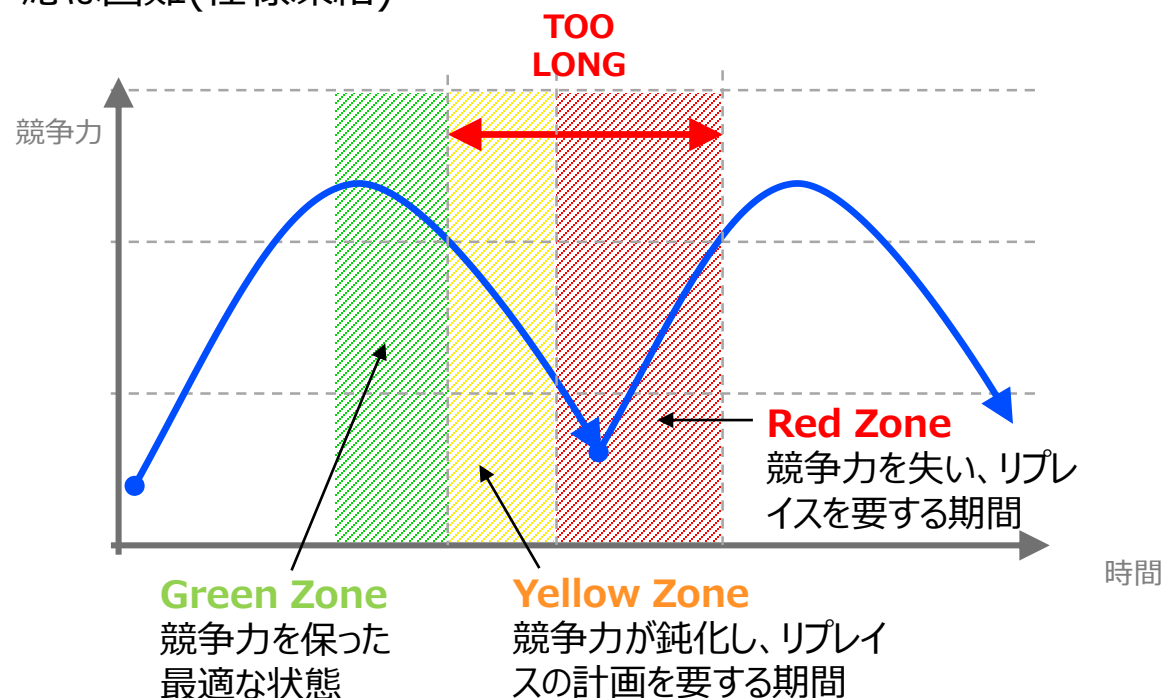


ITの発想転換 「レガシーという概念」が存在しない世界へ

持続的なビジネスの成長を支えるDXを実現するためには、ITのあり方を大胆に発想転換する必要がある。短命化するデジタルビジネスを支える新たな基盤として、アクセンチュアは『Living Systems=進化する“生きた仕組み”』を提唱している。

基幹システムに代表される従来型のシステム

- 「膨大な時間と費用をかけてシステムを再構築する」の繰り返し
(稼働にこぎつけた瞬間から陳腐化がスタート。ビジネスへの貢献という意味では、稼働直後がピーク。)
- 複数年に渡る再構築プロジェクト期間中は、ビジネス変化への対応は困難(仕様凍結)



「Living Systems」=進化する“生きた仕組み”

- 従来型のライフサイクルを大きく転換。基幹システムを一度開発したらそれで終わりではなく、そこを出発点として、絶え間ない改善と機能アップデートによって進化させ続け、新たなビジネスの要求に即応できるスピードとパフォーマンスを発揮しながら、デジタルビジネスを力強く支える、進化する“生きた仕組み”

